

U D L L M

7

vol.308

July 31st
2021

都市の審美眼



- p.2-3 パブリックトイレから
都市の公共空間を考える
- p.4-5 これからのパブリックトイレ、
これからの公共空間
- p.6 トイレをあるく、トイレをみつめる

▲まちあるきで見学した9つの「THE TOKYO TOILET」

パブリックトイレ^[*1]から都市の公共空間を考える

パブリックトイレについては有料化などの商業施設化・管理における担い手不足・多文化多国籍・ジェンダー・高齢化・災害時の防災拠点などさまざまな議論が巻き起こっている。また渋谷区の17箇所のパブリックトイレが生まれ変わる「THE TOKYO TOILET」^[*2]をはじめ、実際の都市の中で空間として変化が起きている公共空間と言える。

そこで「パブリックトイレから都市の公共空間を考える」と題して勉強会を開催し、学年・研究室・バックグラウンドが異なる7人のメンバーが集まった。まずはLIXIL出版の「パブリックトイレのゆくえ」^[*3]を輪読し、その後各自テーマを持った上で実際にまちへ繰り出し「THE TOKYO TOILET」の視察を行った。

●勉強会参加メンバー



松本 大知
組織設計事務所勤務
都市デザイン研修了



合田 智揮
都市デザイン研 M1
都市工学科卒業



若松 凧人
都市デザイン研 M1
建築学科卒業



河崎 篤史
都市デザイン研 M2
都市工学科卒業



塩崎 洸
住宅・都市解析研 M1
都市工学科卒業




高堰 うらら
国際都市計画・地域計画研 M2
法学部政治学科卒業



杉本 莉菜
都市デザイン研 M1
ランドスケープ系研究室卒業



▲オンラインホワイトボード Miro で議論

●興味関心の共有—都市の視点からパブリックトイレを捉える

河崎 みなさん、記事を読んでみて、「THE TOKYO TOILET」をまちあるきする上で、こういう視点が大事そうだな、とかこういうテーマに関心がある、とかいかがですか？

杉本 ホームレスの人を受容できるようなきれいなトイレのあり方もあるのではないのでしょうか。

を考えてみたいです。観点としてはどのようにアクセスするのか、どういうふうに使やすいのか、用を足す以外のプラスαの機能はないか、このトイレを使うのはどういふシチュエーションなのか、また周囲との関係性についても見てみたいと思いました。特に「THE TOKYO TOILET」は話題性やアート性もあるので、これを目的に来てる人を除外しないと広がらないような気がしています。話題性がなくなったらどうなんだろうとか。

松本 トイレって標準設計みたいなスケールの小さい話になりがちかもしれないね。「都市デザイン」研究室のマガジンの企画ということでいろんなスケールで見たパブリックトイレにおける「都市の標準設計」みたいなものはないのでしょうか？

若松 トイレと公共空間と渋谷という軸で論点を考えると、デザインとジェントリフィケーションを考えてみたいです。パブリックトイレというアップグレード(=デザイン)が必要なものに対して、「THE TOKYO TOILET」はいわゆるファイン系の建築家がデザインしています。窪田先生の宮下公園(現 MIYASHITA PARK)に対する論考^[*4]を読みました、キタナイものを受容できるキレイな空間は実現可能なのでしょうか。

杉本 確かに。ある意味異質なので、普通のパブリックトイレと同列で考えると通用しないことがありそうです。

若松 たしかに。建築を出た身からすると、完成されてる標準設計を議論しても仕方がない部分はありそうです。そもそもパブリックってなんなの、公共性ってなんなの、と思うので、せっかく都市工でやるのならそっちをやってみたいですな。

河崎 「THE TOKYO TOILET」のトイレの分布を見てみるといわゆる「渋谷」のフリンジ的な界隈に位置しているように見えます。若松くんの「渋谷性」の変遷とも絡んでくるけど、いまおもしろいのは渋谷のその周りなのかもですね。その境界の特性とか周辺環境とパブリックトイレとの関係性のようなものが見えてくるとおもしろそうだなと思いました。

塩崎 アクセシビリティというのもおもしろいと思いました。良いパブリックトイレというのは道路とか周辺から少し隠れていて落ち着ける場所な気がしていますが、このプロジェクトでは入りづらいようなこともあるんじゃないかと思いました。外からの見え方も考えてみたいです。

高堰 今回は最終的には「THE TOKYO TOILET」を対象にしますが、他自治体や他国でどうなのかというのにも気になります。また建築家としてコラボするまでのプロセスやそれまでの議論にも着目してみたいです。プロジェクトによって使いにくくなった人もいるのかもしれない。

高堰 このプロジェクトでは、立地は渋谷区として改修してほしい場所だったり、デザイナーがインスピレーション湧く場所だったり選ばれてるみたい。

若松 都市的な視点という意味でも、トイレの中にどう入るかというような話よりも、パブリックトイレへのシーケンスとか、見え方みたいな視点は大事そうですね。

合田 ホームレスの排除というような名目もありそうです。

私はロールプレイのようなこと

杉本 ツバメアーキテクツの「開かれた」トイレの系譜的展開——公衆トイレからソーシャル・トイレへ」の記事でもありましたが、パブリックトイレにも銭湯とかコインランドリーみたいなコミュニティの単位は存在するのか、という問いを私は立ててみたいです。用を足す時、女性は個室、男性もそんなに話すほどの時間はない感じだと思いますが、たまたま居合わせた人と交流する、みたいなことがパブリックトイレでも起こると日常の多くを占める時間が面白くなりそうだと思います。

あとは「都市の個室」としてのトイレも考えてみたいです。トイレって生理的なことを満たすだけでなく、お昼休みに歯を磨きに行くとか、女性だったら化粧を直すとか気持ち

の切り替えみたいな心身ともにリセットする場、社会的な意味を持つ場だと思います。

河崎 アイデアレベルだけど、施設に閉じこもるのではなく、「まちのパブリックトイレに行く」みたいなライフスタイルも今後提案できるのかもしれないね。そうすると段々とパブリックトイレで出会う顔見知りみたいな人が増えてきたり。

塩崎 その話で言うと、LIXILの記事「中国、北京——胡同のパブリック・トイレに学ぶこと」では、中国の古い市街地ではまちに共同のトイレがあって、トイレに行くことを「会議に行く」というような表現をする、ということが書かれていました。そ

ういうコミュニティのための微小な公共空間として行政からも重要視されているみたいです。

僕はトイレの形態に応じて吸引力が変化するか?というようなことを考えてみたいです。記事「ドイツ、ベルリン——都市の家具としてのパブリック・トイレ」では都市は「地形(ベクトル場)」として捉えられるというようなことが書かれていました。トイレは忌避されやすい対象だと思いますが、このプロジェクトのパブリックトイレでは周辺に人々が待ち合わせしたり、滞留したりといったベクトルが集まってくるような場であるような気がしていて、そうした用を足すプラスαのアクティビティを観察してみたいです。■



[*1] 本記事では「パブリックトイレ」とは「管理者の立場を問わず商業施設や公共施設に設置された誰でも利用できる開かれたトイレ」と定義する。「公共トイレ」と同義。

[*2] THE TOKYO TOILET <https://tokyotoilet.jp/>

[*3] パブリックトイレのゆくえ (LIXIL ビジネス情報) https://www.biz-lixil.com/column/public_toilet/

[*4] 窪田亜矢 (2021) 「都市における『公園』の再考 事例研究：繁華街・渋谷における宮下公園の変容」日本建築学会計画系論文集

これからのパブリックトイレ、これからの公共空間

記事の輪読と「THE TOKYO TOILET」視察を経て、各々持ち寄ったテーマが膨らんできている。そこで勉強会に参加したメンバーに各々キーワードを掲げた上で思いの丈を綴ってもらった。これからの都市におけるパブリック

都市の人流にそっとトイレを

スクランブル交差点を引き合いに出すまでもなく、都市のあらゆるところには人流がある。都市に点在する様々な要素が基盤インフラでつながり、その上を人々が行きたいところへ向かうことで発生するから、その流れは自然なようで、どこか人工的でもある。建築計画がそうした人流を意識することは言うまでもない。

あるいはよりミクロな視点では、**個々の建築が人流を作り出している**ともいえる。馴染みのある場所では、多少我慢してでも最寄りではなくお気に入りのトイレまで行くこともあるだろう。流れに沿いながら、個々の施設もまた流れを作り出している。

最小の公共空間たるトイレからは、人流の**収束・発散への意識**を強く感じることができた。交通量の多い道路脇に位置する東三丁目トイレは駅から歩いてくる方向を正面に見据え、小さな敷地ながら自転車停めスペースを配置していた。一方、西原一丁目公園トイレでは、車一台停めることのできない路端の公園の中で、樹木に溶け込むように、堂々と入口を広く構えていた [写真]。

公共トイレという小さな装置の入り口ひとつとっても、利用者への配慮にあふれ、人々を吸い込みながら、少しずつ流れを変えている。良いデザインは気づかれないと言われる。勉強会は**トイレを切り口に都市や建築にひそむ配慮を再認識する素敵な機会**だった。



合田智揮

公共トイレの定義と「公共性」の検討

そもそも公共トイレとは誰にとってどのような存在意義があるのか。日本の公共トイレは無料である場合が多いが、それは世界的に見ると当たり前でないことが勉強会でわかった。勉強会ではあらゆる国の公共トイレ事情について学んだが、公共トイレが有料であることや公衆トイレ（行政管轄）がないことは決して珍しくなかった。例えば、ニューヨークやバルセロナでは飲食店がトイレを開放しているが、顧客のみ利用できるように鍵をかけている場合が多い。ケニアでは入り口で利用料を払い、その収益で公共トイレを住民間で整備しているケースが見られた。[公共≠無料]であるならば、何が公共トイレを「公共」とするのか。

坂本 (2005) [*5] や学者の多くは公共トイレと公衆トイレの定義を管理者の違い（行政か否か）を軸に整理しているが、私は公共トイレを利用者視点で定義することを提案したい。例えば利用者からすると「公共トイレ」の中には「①無料」「②有料」「③商業（顧客のみ利用可能）」がある。行政が管理する「公衆トイレ」は①か②に位置付けられ、他はあくまでも「公開（publicly available）トイレ」としていずれのカテゴリにも位置づける。

利用料を必要とすることは、その負担が困難な人（ホームレスや子供など）にとってアクセス不可能になることを意味する。公共トイレをこのように定義をした上で各種公共トイレの分布や集中度である都市空間の公共性や自由さを測ることができないか。公共トイレには「生活インフラ」としての存在意義もあるかもしれないが、ある意味各国や街の「公共性」に対する姿勢が反映される特殊な存在でもあるのではないかと。

高堰うらら

クトイレの位置付けや、さらに大きく、都市における公共空間の位置付けを考えるきっかけになることを期待している。

ヨクワカラナイもの

京都大学の熊野寮を訪れたときのことだ。その住人でもある友人と寮内を歩いていると、もとは透明のガラス窓が色とりどりに塗られた廊下にさしかかった。きちんとしすぎているものを自分たちで塗ったのだと友人が教えてくれた。なるほど、と私は思った。**彼女たちはキレイなガラスに絵具を塗ってキタナイものにする**ことで、**空間を自分たちに馴染ませていた**のだ [写真]。一方で、私が専門とする建築や都市の計画・設計は基本的に、キタナイものをキレイにする営みだといえる。そうしてできたキレイな空間はしばし、それに身体的にも社会・経済的にも馴染めない人々を生んできた。

渋谷に近い高校に通っていた頃、宮下公園ではスケートボードやホームレスをよくみた。しかし昨年そこに完成したキレイな商業施設に彼らの姿はない。宮下公園の計画で渋谷区が参考にしたニューヨークのハイラインやブライアント・パークも、キレイな空間によってキタナイものを排除した例としてよく知られている。これらは全て、新自由主義の大波が都市を呑みこむ過程だともいえる。この大波を前にして私たちに突き付けられるのは、**キタナイものを受容できるキレイな空間は実現可能か**、という問いであろう。そしてそのヒントは、意外と身近なところにあるように思う。

BEAMS の企画による「TOKYO CULTURE STORY 今夜はブギー・バック MV」は渋谷系アーティストの小沢健二と渋谷の桑原デザイン研究所出身のシュダラパーの楽曲に沿って、このまちが生んできた文化の多様性を描いている [*6]。それらは**キレイなものもキタナイものも混沌とした、ヨクワカラナイものたち**である。既存の価値観に還元されないこれらヨクワカラナイものは、キレイなものもキタナイものとの対立を軽やかに乗り越えているように感じる。

対する THE TOKYO TOILET である。設計は有名なアトリエ系の事務所が半数ほどを占める。大きくてキレイな空間を生産して生計を立てる事務所に小さな公衆トイレのプロジェクトを発注したとき、どのようなデザインが出てくるかは容易に想像がつく。それは決してヨクワカラナイものではなく、ただのキレイで大味な建築物である。一方、例えば JIA が発注者・応募者の双方を支援した大井町駅前パブリックスペース設計コンペでは、実績の少ない若手建築家たちが選ばれている [*7]。そしてその若いエネルギーにより、新しい公共トイレの図式と誰も見たことのない風景が生み出されている。そこには**キレイなものにもキタナイものにも還元されない、ヨクワカラナイものの萌芽**を感じる。

幸い渋谷には、ヨクワカラナイものが堆積した厚い地層がある。駅周辺の再開発も、宮下公園も、THE TOKYO TOILET も、足元の土壌を活かした企画や設計を試みてはどうだろうか。そうして生まれたトイレはきっと、熊野寮に住む友人も使ってくれるに違いない。

若松風人



熊野寮のガラス窓

パブリックトイレと視線

都市には常に視線が存在する。すれ違う歩行者の視線、窓から覗く観察者の視線、遊ぶ滞在者の視線。大量の視線に晒され行動を規定される都市生活者にとって、周囲から遮断されたパブリックトイレは一時的な安憩所となる。「**ひとり空間**」としてパブリックトイレは公共空間の中でも特異な位置を占める。

一方で、その使用過程に視線が全く存在しないわけではない。パブリックトイレに入内するとき、その入り口のドアを開ける瞬間は、屋外排泄行動へのまなざしを受ける。公共トイレの使いにくさは、トイレ自体の質の低さだけでなく、まなざしに対する無意識的な後ろめたさにも由来する。

「誰もが快適に使用できるパブリックトイレを設置する」と銘打った THE TOKYO TOILET のうち、未利用時は透明だが利用中は中が見えなくなる「透明トイレ」は、透明性によってトイレ内の清潔度や不審者の有無が確認できることを謳っている。しかし、利用者の主体としての便益は得られても、客体としての視線の課題は解決できていない。公園のグランド脇に設置され、周囲に樹木やフェンスなどの遮蔽物が存在しない透明トイレは、**入退出時に公園利用者の視線に無防備に晒されることになる**。多様な利用者を十分に想定した設計とはいえない。しかし「ひとり空間」としての機能性は、その透明化メカニズムによって強化された可能性が存在する。透明トイレでは、中の鍵を閉めた瞬間調光フィルムに電気が流れなくなり、ガラスが不透明化する。すなわち、**鍵の開閉という一つの行為を通じて利用者は視線の主体的かつ断続的な遮断を体験し**、独りの時間を過ごすことができる。

視線の集中と遮断、本来連続的な場面転換をコントロール下に置くことで、都市生活者は「**ひとり空間**」としてのパブリックトイレを再認識するのだ。

塩崎洸

都市とトイレの境界

公衆トイレは不特定多数の人々が行き交う都市の中にぼつりと置かれた完全プライベートなボックスである。便器とトイレトーパー、手洗い場。トイレの機能はほとんど共通で、山などの特殊な場所をのぞけば、地域によってあるいは周辺環境によって変わることはない。

THE TOKYO TOILET で計画されたトイレはしかし、トイレという機能を満たす空間自体こそ変わりはないものの、そこにまとわりついた余剰空間があることで、**都市空間のパブリック性と、トイレのプライベート性の間に中間領域が生まれていた**。

例を挙げると、公園内の地形の起伏を生かした遊歩道と呼ぶるように回遊動線の中にトイレが存在する鍋島松濤公園トイレ、タコをモチーフにした遊具に対比しイカの形を模した屋根で中庭を包み込んだ恵比寿東公園トイレ [写真]。その場所のキャラクターを汲み取り計画された公衆トイレは、都市の中に孤立したボックスではなかった。公衆トイレも、**都市の中の一空間として、立地する空間を引き込むように、あるいは境界を外側に拡げていくようにデザインされるもの**がもっと増えていってもいいのではないかと。

THE TOKYO TOILET が、目新しさと一時の話題性にとどまらず、今後の公衆トイレのあり方に何らかのインパクトを残すのかどうか、注目していきたい。



恵比寿東公園トイレ平面図

ワーク・「連れション」・ライフ

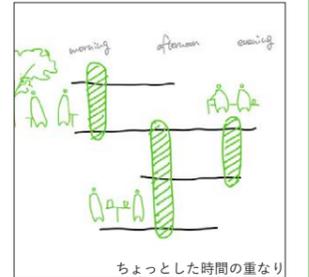
小・中学生時代「連れション」を経験したことのある人は多いだろう。「連れション」は「連れ小便」の略であるが、それは用を足す時間であるのはもちろん、**友達とちょっと雑談する時間、授業と授業の間でちょっと一息入れる時間**である。私はここからスケールを拡張して都市の中のパブリックトイレでの「連れション」的アクティビティを妄想してみたい。

コロナ禍を経て、自宅周辺の「近隣」が見直され、テレワークが浸透する中でワークとライフの境界が一層不明瞭になる中、ライフスタイルにメリハリをつけることが一層大事になっている。一方尿意・便意というのも1日の中で定期的にやってくるものだ。

こうした中で、**まちのパブリックトイレに「連れション」に行くことで一息入れる**というのはどうだろうか。朝出勤する前に公園で過ごす時間。まちの食堂で昼食を食べた帰り。まちのコーヒースタンドで一服するとき。ルーティンの散歩がてら。

またそうしたゆとりの時間がライフスタイルに組み込まれていくと、**その1日のちょっとした短い時間がオーバーラップし共有する人々によってゆるいコミュニティが形成されていく**かもしれない [図]。毎朝公園で時間を過ごしているあの人。お昼休みに必ず出会うあの子。屋下がり一緒にコーヒーを飲むおじいちゃん。暮らしがまちに広がっていく中で、パブリックトイレは地域の人々の過ごす時間が重なり合う場所になる可能性を秘めているのではないだろうか。

河崎篤史



ちょっとした時間の重なり



●勉強会を終えて

公共空間における「美しさ」とはなんだろうか。「美しさ」とは単に見た目の良さとどまらない。これは非常に抽象的で難解な問いである。一般的にパブリックトイレはこれまで都市の中で「美しくない」公共空間だったかもしれないが、最新の論考と事例の見学を通じて「都市のパブリックトイレ」として何が美しく、美しくないかを議論したことは貴重な財産である。それを糧に都市の審美眼を磨き続けていきたい。(M2 河崎)

[*5] 坂本葉子。(2005)。「公共トイレ管理者白書」1章 自治体管理者の声。

[*6] BEAMS 40周年記念プロジェクト始動 第一弾 「TOKYO CULTURE STORY 今夜はブギー・バック (smooth rap)」MV 公開、BEAMS 企業サイト、2016-10-21。https://www.beams.co.jp/company/pressrelease/detail/85

[*7] 最小公共建築 公衆トイレ、建築ジャーナル 1287、2019-02。

トイレをあるく、トイレをみつめる

前頁では各々が勉強会を通じて得たテーマに関して思いの丈をふるったが、ここではトイレそのものへの感想を率直に掲載する。ここに留まらない多くの意見をメンバーでは出し合ったが、誌面の都合上一部を抜粋した。生

意気で辛口なものもあるが、勉強会メンバーのトイレへの姿勢、そして熱量が少しでも伝われば幸いである。



- 恵比寿公園
- ・ RC 壁構造を活かしたライティング
 - ・ まちの雰囲気合った高級感
 - ・ 公園のスケールには合わない



- 東三丁目
- ・ 街路の折れ曲がりには赤いファサード、周辺街路からのレジビリティが高い
 - ・ 鉄板が寸法や仕上げの陰影に現れている
 - ・ 不整形な土地をうまく使った形状



- 恵比寿東公園
- ・ 内部の植栽が中間領域を作り出している
 - ・ 動線計画と雨水処理が周辺に適合している
 - ・ 女子トイレまで男性が入ってきそう



- 神宮通公園
- ・ 周りの樹木とのバランス
 - ・ 柔らかく光が差し込むトップライト
 - ・ バス停とのつながりがよかった



- 鍋島松濤公園
- ・ 公園の回遊性がデザインに反映されている
 - ・ 地形に沿わせた配置
 - ・ 街路に対する配慮が薄い



- 神宮前
- ・ ポップな配色がリズムカル
 - ・ 敷地内に大きなデッドスペース
 - ・ 高低差の処理と道路の見え方が微妙



- はるのおがわ
コミュニティパーク
- ・ 公園の遊具の一つにも見える
 - ・ 夜はそれ自体が照明器具になっている



- 代々木深町小公園
- ・ 技術の賜物。斬新さが良い
 - ・ 男性用と女性用が一見するとわかりにくい



- 西原一丁目公園
- ・ トイレ前の舗装、車止めまでデザインされており、アーバンデザインを一番感じた

COLUMN

BOOK OF THE MONTH



本日は、
お日柄もよく。
原田マハ
徳間書店
2010

推薦者
M2 岡本

言葉で人を幸せにできる、時に勇気を、時に感動を与えることができるスピーチライターという職業に焦点を当てた作品。読み終わるころには、日頃何気なく使う言葉を丁寧に使いたくなっているはず！たまには小説を読んでみるのはいかがでしょうか。

WEB MAGAZINE

続きは都市デザイン研究室 HP で！
<https://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ig/blog/>



みなかみ PJ 初の現地調査！

3か月のリサーチを経てようやく行けた現地、初回である今回はみなかみ町広域を見学しました。780km²もの面積を有する当町はエリアごとに雰囲気が全く異なり、その違いを実際に体感できました。(M1 神谷)



第2回中宇治トーク開催！

大学合同チームによるプレゼント、地域の方を交えたディスカッションを行いました。地域の方々の想いを、まちの価値を生かし新たなアクションを起こす空間・仕掛けづくりに生かしていきます。(M1 杉本)

LOOKING BACK AT JULY

- 17-18 宇治トークセッション
- 18 手賀沼生き物観察会
- 19 上野いけなか MTG
- 22-23 みなかみ現地調査
- 26-27 修論ジュリー
- 29 研究室暑気払い
- 29 新宿区景観 MTG
- 研究室会議 8.14,20

POSTSCRIPT

早くも最後の主担当ということで勉強会を企画し、多様なメンバーで自由闊達な議論ができた。その熱量を本誌を通じて少しでも感じていただければ幸いである。(M2 河崎)